台湾の開かれたスタジアム

@Taiwan

3月末、ポッドキャストで配信している建築系ラジオ（下のURL参照）のメンバーと台湾ツアーを行なった。10数年前に筆者が台湾を訪れたときは、近代の様式建築と李祖原（リーズーユワン）のポストモダンを見学することが目的だったが、今回は主に最新の現代建築をまわってきた。

つい先日も台北のパフォーミング・アーツ・センターの国際コンペでレム・コールハース率いるOMAが一等を獲得し、また、渡辺誠の台中野外劇場が完成したばかりである。日本の現代建築への関心は高く、台中の国立台湾美術館の館長と、ヴェネチア・ビエンナーレにおけるコミッショナーの選抜方法について意見を交換した。石上純也の温室にも興味をもっていたが、とくに伊東豊雄の人気は高い。彼の設計した斬新な台中のオペラハウスはまだ建設中だが、周辺の不動産物件が値上がりしているという。

北京、ソウル、台湾の各都市において、すぐれた建築家の重要なプロジェクトが進行しているのに対し、近年の東京では凡庸な開発ばかりで、世界都市としての行く末を考えると、いささか心もとない。

2007年、台湾では日本の新幹線をモデルにした高速鉄道が開通し、今回は移動もおそろしく簡単になった。そのあおりで飛行機の国内線は壊滅状態だという。

さて、高雄では今春に竣工した伊東によるスタジアムを訪れた。今年の秋、国際大会が開催されるのにあわせて建設されたものだが、競技場の前に停まるMRTも開通し、ほかの駅舎では高松伸やリチャード・ロジャースが設計に参加している。

ドラゴンのようなダイナミックな造形をもつワールドゲームズ高雄大会のメインスタジアムが興味深いのは、「?」型のプランを採用したことだ。通常、こうした施設は、ローマ時代のコロッセウムをはじめとして、必ず楕円形の閉じたかたちになる。ところが、高雄のスタジアムは片方の端部を外に開き、水辺のある広場や大通りへとつなげていく。全体は馬の鞍のような構造体の単位をぐるりと反復し、それらの隙間からはまわりの風景もよく見える。しかも、スタジアムの周囲に豊かな緑のあるランドスケープがつくられており、自然と一体化した建築になっている。

つまり、外に向けて発信する現在の台湾を象徴するかのように、公園や広場と連続するスタジアムの新しいプロトタイプが提案されているのだ。

2009年ワールドゲームズ高雄大会のメインスタジアム。設計は伊東豊雄　写真提供：筆者

＊ 第一部＝http://tenplusone.inax.co.jp/radio
第二部＝http://radio.tatsumatsuda.com

をちこち散歩
五十嵐太郎
いがらし たろう
建築史家
東北大学准教授